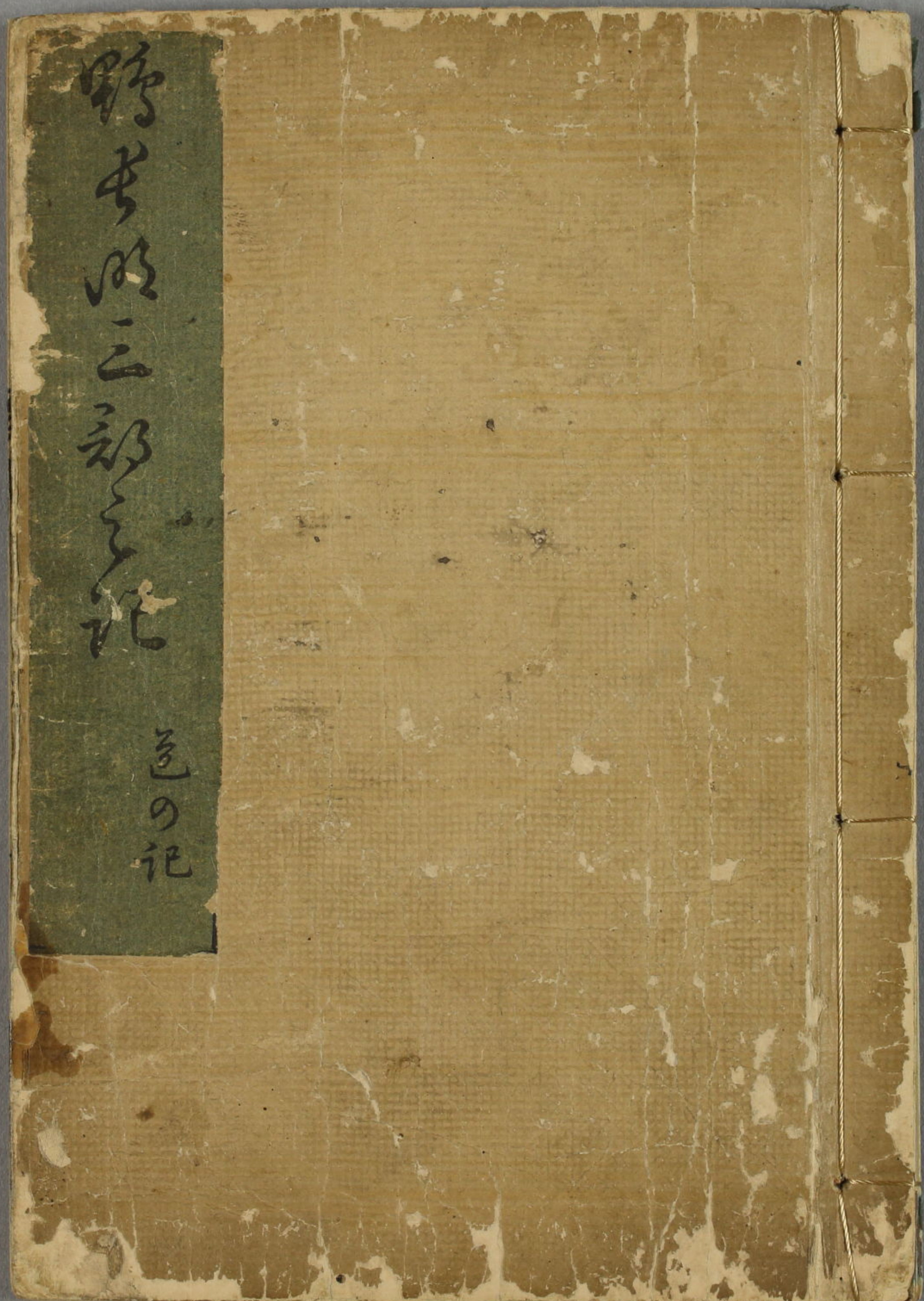
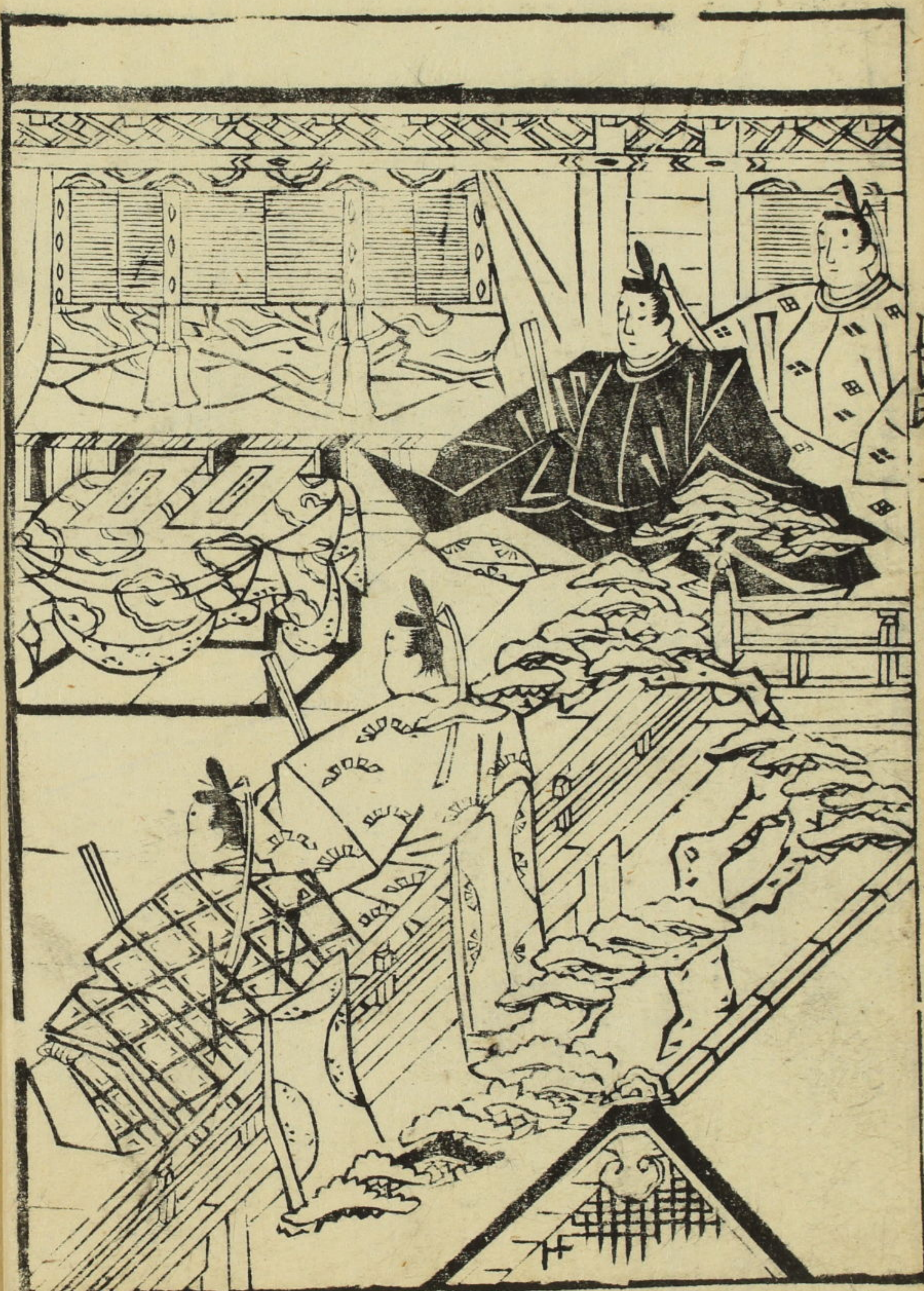
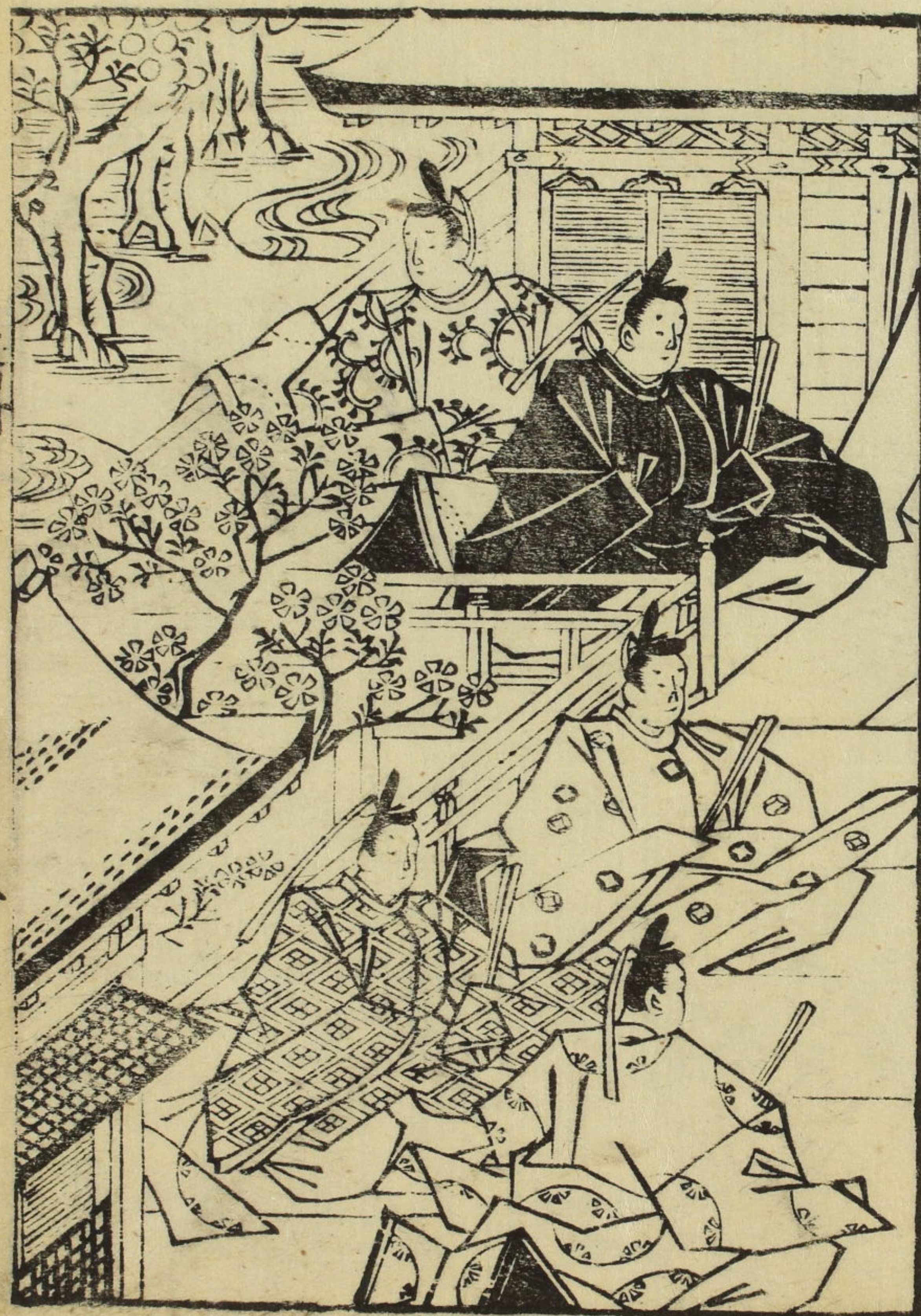




野中氏之部記

巻の記





海にますゆゑにびとにのちをた
びとにのちをた

いふへのも金のわたりまて

とらけろのせき

東三條院存すは海にぞ還齊ありきとて。
 雲の波ありとてさそせ給ふとてよもせ給ひ給ふに
 おもひあひしわさく実のになつとてさるの
 りそとてさるさるゆくりとていなりりりり
 はのしらみとおくれなむがそぐれせといと
 らたおもむらうぞのく海。粟津の京をんて
 ひどまゝいまこねおのらるまこととてさるあて足る
 次。しー天智天皇の代ちかぬわすめのかり

和

[illegible][illegible]

11

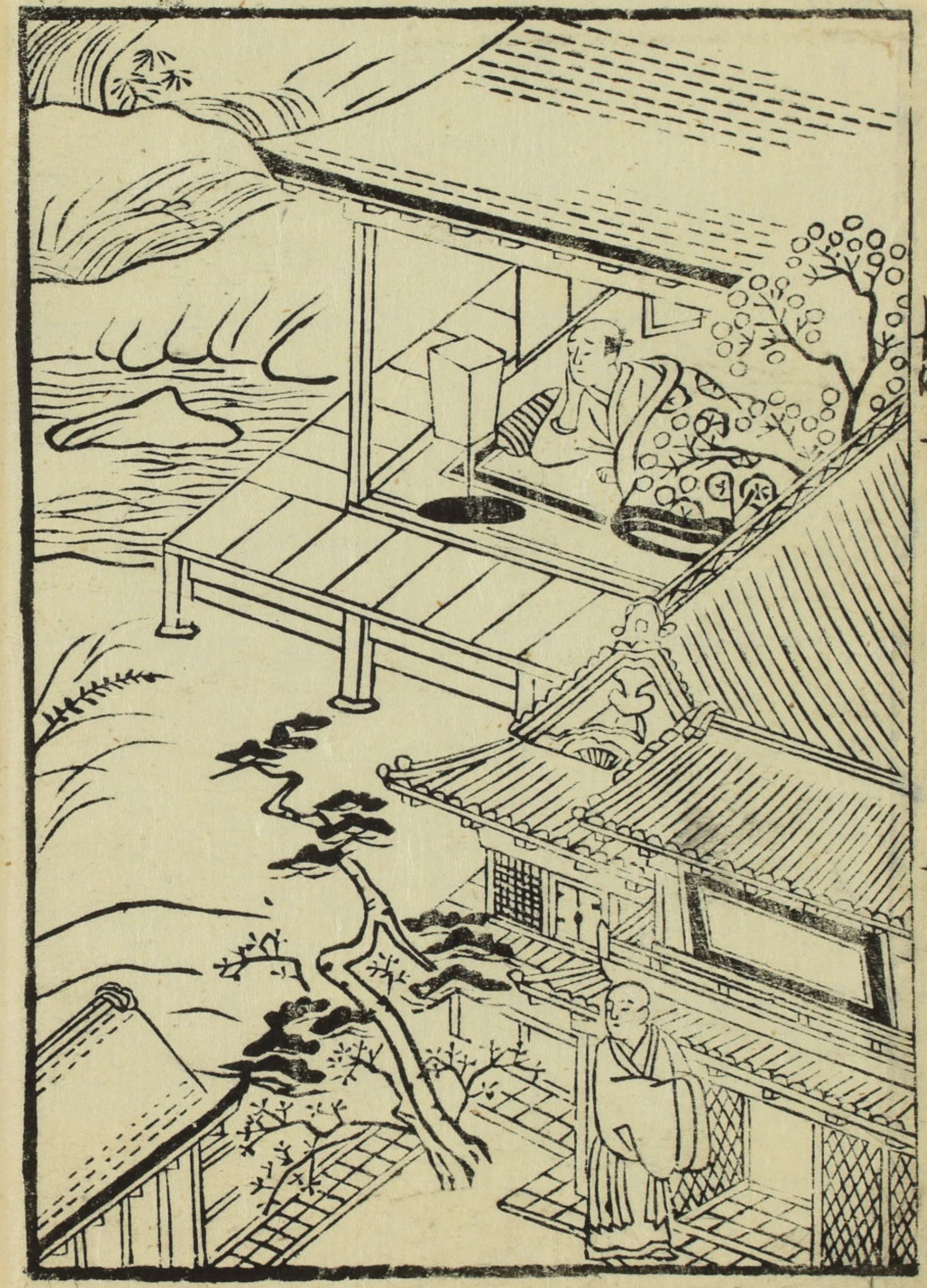


[illegible]

中元節

乃のつる本陰の清みびらきなり
 ちんちんちんちんちんちんちん
 柳原くさくさくさくさくさく
 かつぬさくさくさくさくさく
 本を清くさくさくさくさく
 下通あつたわさくさくさく
 の周どなり。茅原の板びきく。年をさくさく
 みゆりくさくさくさくさくさく

ぬき秋の月とて海をうつる。さひやもて
 けしきも花散るまうりてひまゝにやいふ
 影とのこさんもあるてあがてささむは
 くらとてさぬくおせ川とてあはれぬて秋
 かつかたなりけりてあてられど秋の夜中
 の晴天とて川流はゆるみく。照月とても
 ずすみぬりてささぬ。ささのちのちの
 ふちのちもささのちのちのちのちのち
 まさのちのちのちのちのちのちのち
 三百花散る川は流る。ささのちのち
 のちのちのちのちのちのちのちのち
 と秋遠千里の雲をささぬ。ささのち

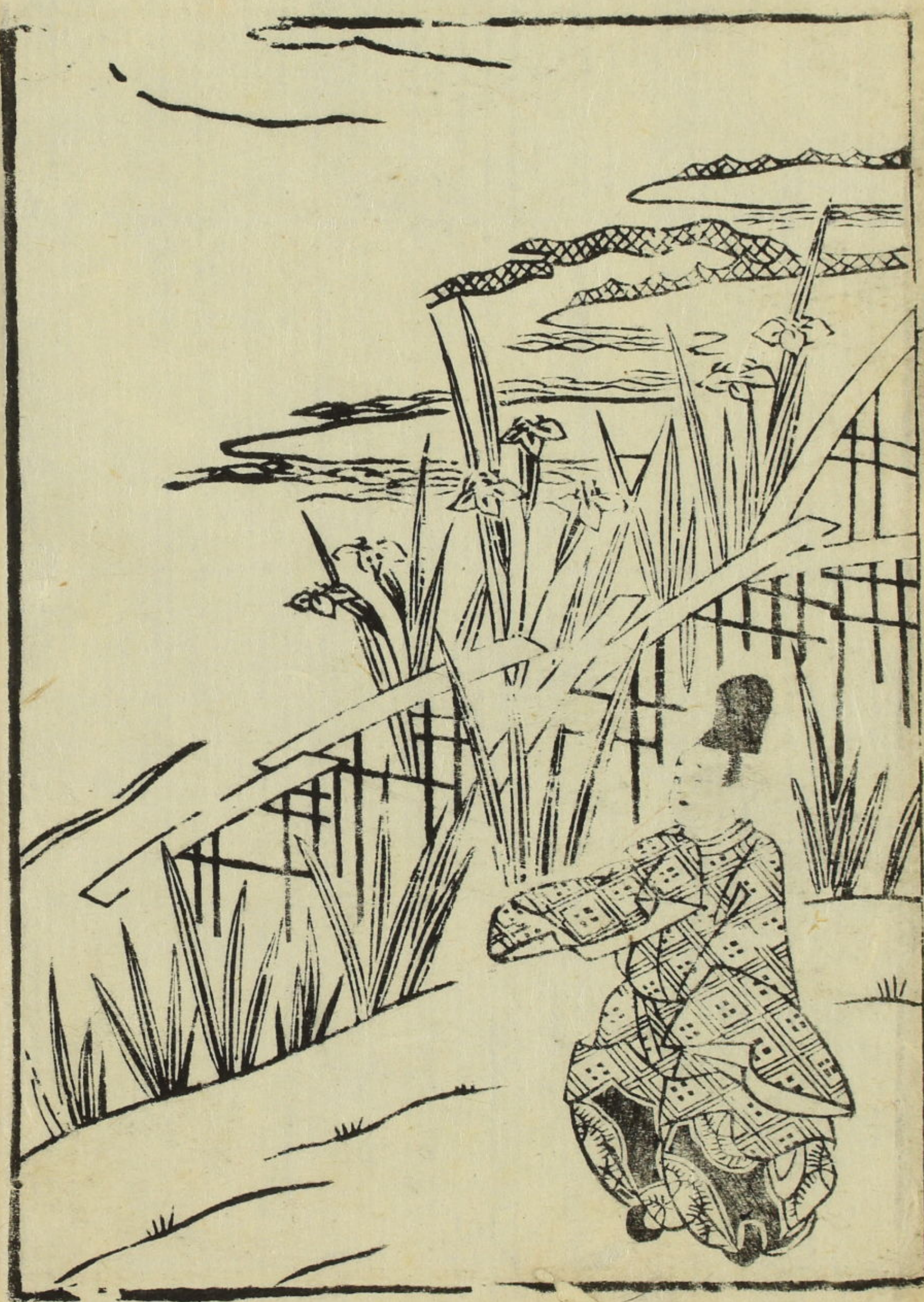


くろきつれどもあつたふりなつたふりな
むしひのふりなつたふりなつたふりな
とらねどもあつたふりなつたふりな
のふりなつたふりな

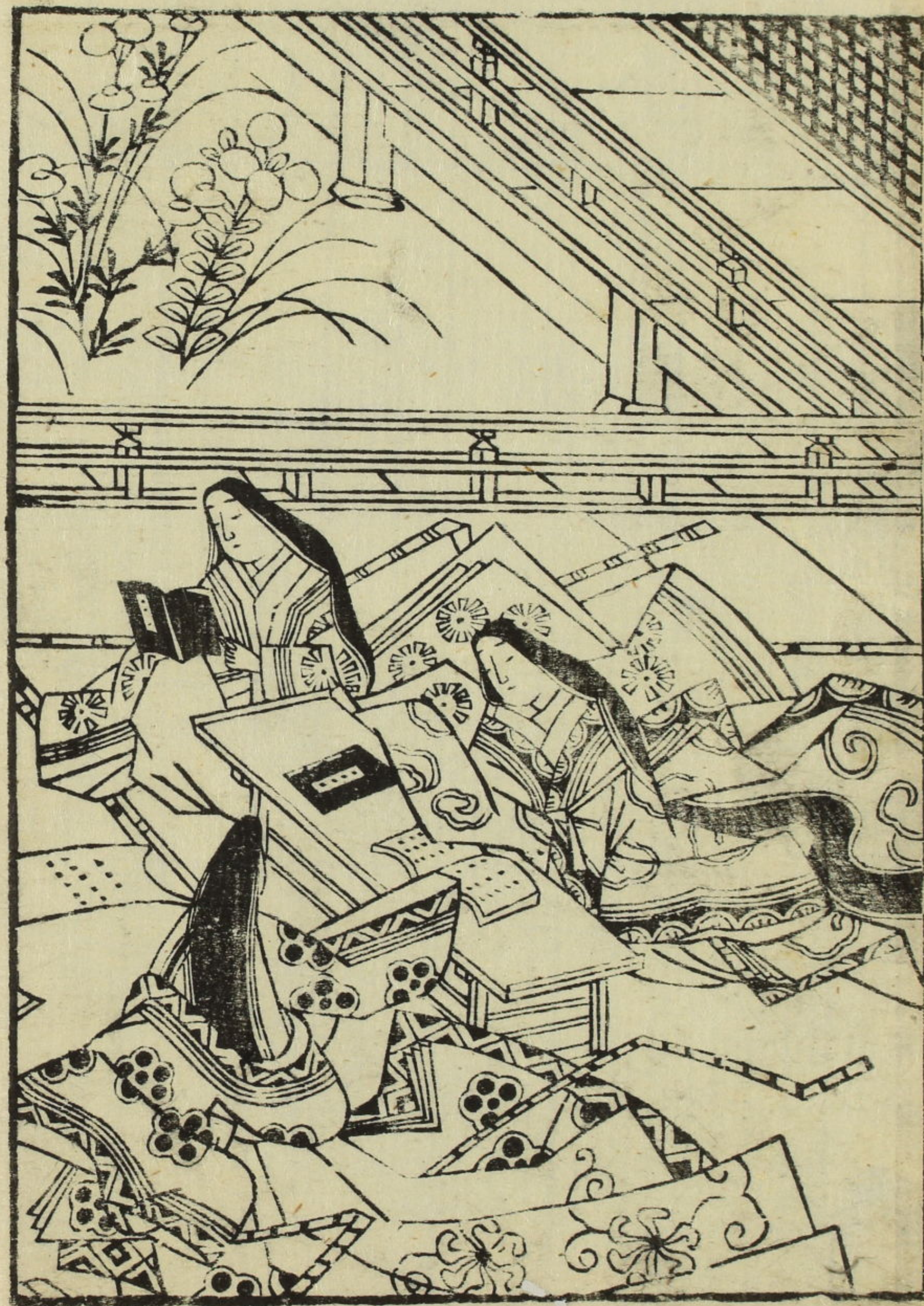
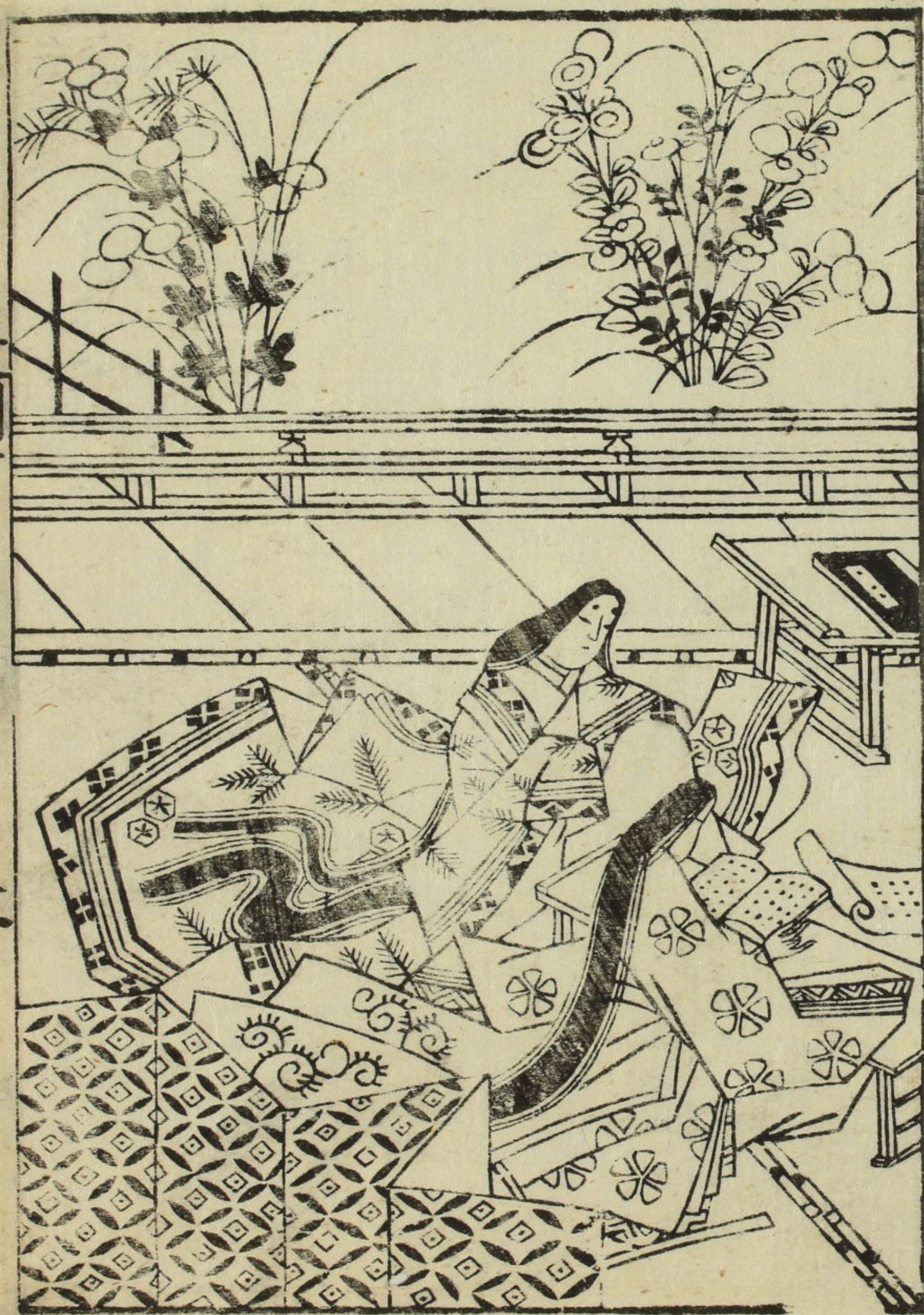
おゆのふりなつたふりなつたふりな
源の義雅のふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな
やふりなつたふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな

ふりなつたふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな

ふりなつたふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな
ふりなつたふりなつたふりなつたふりな



[illegible][illegible]



勢秋わくくびく。南の岸山をて秋の花
はゆきまぎる。昔より雪にうつり白雲にまけ入
器ひく麻糸の隙とりあり。虫ぬきとあらまう
ちとゆかりまじれん。しほしほと海へ

香々々々々
依安の中

[illegible]

さればわらふことなりとてあはれにわらふ
 よめけしものなりとてあはれにわらふ
 今もさうなりとてあはれにわらふ
 あはれにわらふことなりとてあはれにわらふ
 書はるるなりとてあはれにわらふ
 わらふことなりとてあはれにわらふ

菊州とてなりてつたもの一利のさまり
 二アとあるなりけり山皇の日記れうそに
 すううらむなりけりあてふり大井戸と
 なるなりこれなりけりみちたはるのさ
 ようとあるなりけりわさうの河原と
 とうとあるなりけりわさうの河原と



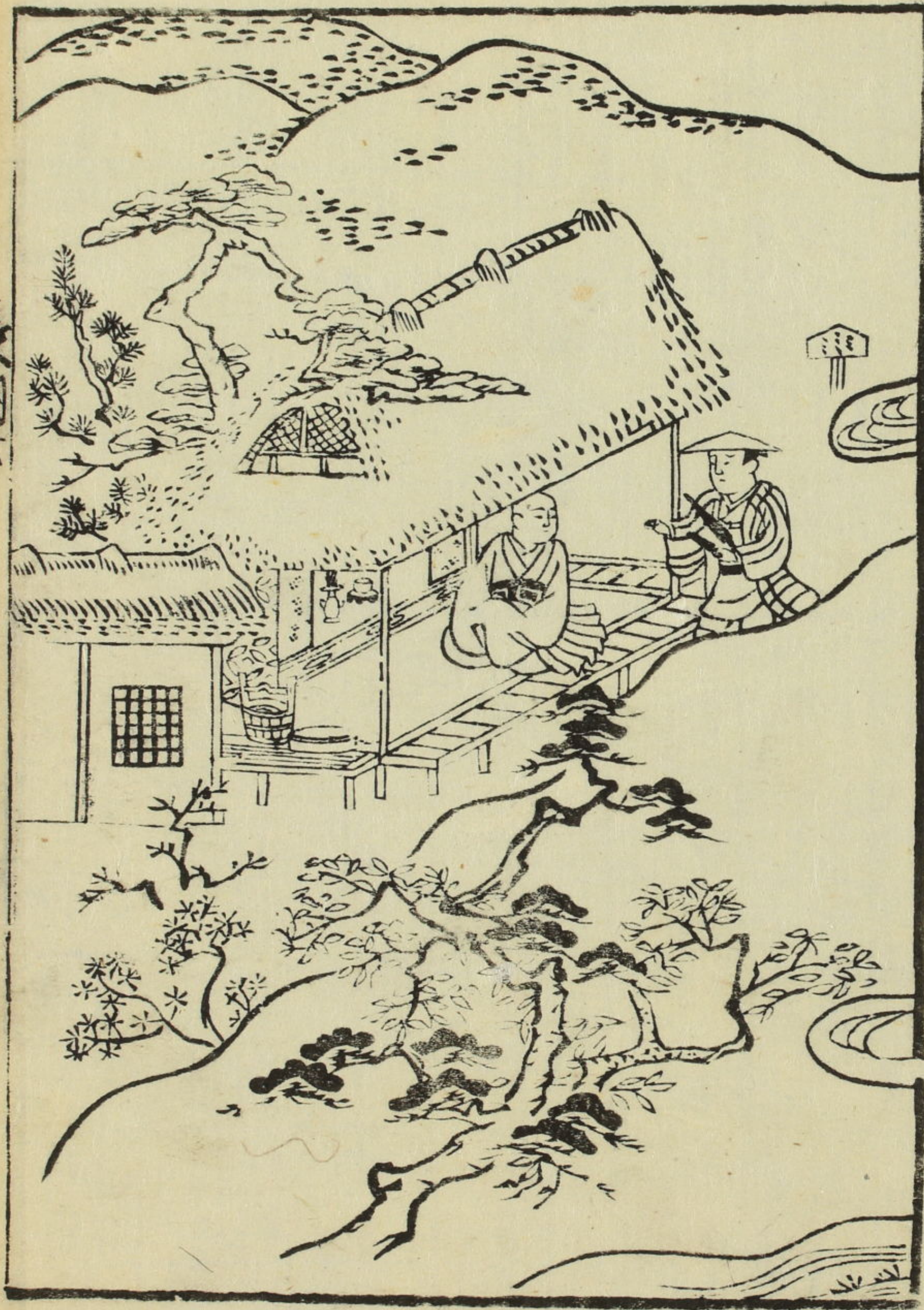
まり。わがまらののありひまゐるのあり
 るありひまゐる。まは天竺の市街。将門と
 のわがまらゐる。まは天竺の市街。将門と
 るありひまゐる。まは天竺の市街。将門と
 のわがまらゐる。まは天竺の市街。将門と
 るありひまゐる。まは天竺の市街。将門と
 のわがまらゐる。まは天竺の市街。将門と

清心と閑とをてけりて
こころざしありはちあきらん

け國をとりぬやうにわらうとてふ浦あり海は
 ひろしうなやうなりてききうこれに候き
 はよひう候のきもかのかうやう候やうに
 て候きうのきに

法身を以て我を以て凡を以て凡を以て
 凡を以て我を以て我を以て我を以て

と書はさうにまゝうひるべからず
 草の北のまゝうひるべからず
 わるうゝのやれやぬぞう
 祇のまのうゝとゆとゆと
 うひうゝとゆとゆと
 うゝとゆとゆと



乃雙峯寺一葉の舟中の戦果の如く
よづれも是もく山も人地をうつろひ
んさるるにちりのまうらゐを
せりにほく泥のうつか
車くくろく里わく或るは宿りなれど細
流りもどるひつりすみだにほおのや
うあつて体のさしあもみろりなり
故傳其の夜せの森寝もくやういんえ
くまうこのつうすうあれ
いふありや袖人のうん
いふはる國府にうめさくつたのれ
めうらあつてさうにねのあつて

かづもてぬのきくさく
ふの中らほふの國と信の天の計と
なるとやふく徳國の道は後を實徳令
ひよりてあふのそくさつてさるる
天より西暴ふつてくれろ病歎ふさ
まらうきふのいふさうさうこの
あまてゆめさすたふさうさう
やたうけい苗代水のうれさ
まうあつたるさうさうさう
おりさうさうさうさうさう
くおうさうさうさうさう

うつ 家前のうきとつわり 松原新跡の
 りつげさうださう 紫橋がふみぬのやうに
 うきまふり けしきついで 家前の驛山宮へ
 けしきついで 家前の驛山宮へ
 浅瀬の心寺ともひつべし 城とさなり
 るもいほむのゆくえさうとせせせ
 るいひつて法教ありきよ

今よりちぢひきつゝの海

かうさうくると殊はまうやく
 ぴんともうかうして帰來といふあはれ
 ともうたふありといふけりくちあはれ
 若海みかよりまゐる君世の涙さくじやく

楊外房のよめはさういふさうの倭民の
 のさうのちれ洞（うら）りよつたさものと
 ころちびよさうゆそてわかれさう

うねふのこはるささる心の
ゆめつねふのこはるささる心の

けちぢくもてきて傷合ふはやく見れつゝへ
 むろともいふうがふさうにわすれゆく心
 のこすまゝのまゝでたれに傳ひらるゝうら
 みやうゆふとくそぞろをける落しなくしてらん
 ゐぬめうそ心あづきえの道こそ苦なり何ぞ
 よさうつさいおぼえたるよりこれよりわかれよ
 わかれば旅ぐさ屋とかうそぞろありぬあきら



とまのちうに松巖乃まのふといさなりてや傷
りありきいなることむしきより後傍りたりと
つる四月との月より祇宗の親とさうひ
けはなとうこひんとうなる人は金銀れえ
されとさうふぶくのさうす作れぬ軍
いげけつりそくらもさう松の中ら藤の
しらくへき多し一も中にも湯井の圃らふ
あよあなび佛の大佛とありなりよりさ
くわりやかくてさうひくまのいさささだ
くとささづ。そのおろりとあるあさふ
まのうみ人々老上人といふのありさ
し延慈の流より周知のふたふた

けり。佛像とて、くちの堂舎を建てし。そののち
 とうり、臨^{リン}はふさぐに、及^{およ}び爲^な悲^{かな}しくわたりし。其^{その}に
 ちえの衆^{しゆ}より、は毫^こわくたふさぐに、西^{さい}月^{げつ}
 乃^{すなは}ちひりとうちの解^げらするなり。ぬえ年^{ねん}は
 歌^{うた}すゑより、城^{しろ}堂^{どう}を、又^{また}土^{つち}橋^{はし}せし。あへうらまは
 たり。はちある寺^{てら}の、あそび、八^{はち}聖^{せい}武^ぶ天^{てん}宮^{みや}の、製^{せい}
 作^{さく}。金^{きん}堂^{どう}す。又^{また}竹^{たけ}の、揚^{よう}進^{しん}那^な佛^{ぶつ}あり。天^{てん}竺^{しやく}
 景^{けい}且^{かつ}あり。類^{るい}るに、佛^{ぶつ}像^{ざう}とて、すてはゆき。その
 阿^あ弥^み陀^たち、八^{はち}丈^{さう}の、長^{なが}き、まの、土^{つち}、依^より、あへ
 うらまはし。金^{きん}洞^{どう}本^{ほん}像^{ざう}乃^{すなは}ちひりぬえ。そとあへ
 ども、未^み代^{だい}より、りち、は、是^{こゝ}も、うらまはし。ひつじ
 弘^{こう}法^{ぽう}東^{とう}御^ご、み、さうり、うらまはし。授^{おづ}化^け力^{りき}、

ちうかうかくありがごとくわがやうや。のこしを
 とききくあり心とありどういふにひきこもるが
 もくらく武うけくはくはくはくはくはくはくはく
 ぶらに較ありぬありむ六日とありあり
 多むわのこくをくくくくくくくくくくくく
 ひなくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくく
 り研にへくくくくくくくくくくくくくくくく
 ありありありありありありありありありあり
 くるくくくくくくくくくくくくくくくく
 ぎくくくくくくくくくくくくくくくくく
 はくくくくくくくくくくくくくくくくく

[illegible]

てるるなり。中身の浅きものなり。
ふもこの世にたつてゆく今期なるは
さへなるなり。これなり。さへなるなり。

吾妻鑑第九云
建曆元年十月十三日。晴。鴨社氏人菊ノ
太吏長明入道。連亂依。雅經朝臣之舉。此用
下向。奉詔將軍家實朝及度々。而ルニ
今日當幕下將軍御忌日。参假法花堂
念誦讀經之間。懷舊之淚相催。註一昔歌
於堂在。
あゝまゝなるは。あゝまゝなるは。
ひさしき。ひさしき。ひさしき。ひさしき。



